

AJU

コンビニハウス

会報

編集/コンビニの会事務局
連絡先/〒452-0807 名古屋市西区歌里町147番地
TEL/FAX(052)505-6082(コンビニハウス)

障害をもつ人たちの地域生活を支援する

特定非営利活動法人
コンビニの会

定価/150円
昭和54年8月1日第三種郵便物承認

第164号



極楽バス停

このバス、どこ行き？

風景写真愛好家 片桐 彰夫

これは名古屋市バスの極楽バス停です。長女は毎朝ここからバスに乗って事業所まで通っています。

今年で35歳、生まれた時に水頭症と診断され知的な障がいがあります。日常生活でのやさしい会話は通じますが、文字は読めず自分の名前を書くことはできません。ただ、カレンダーが好きで数字と曜日は読めます。消火器のラベルを見て火曜日と翻訳しています。

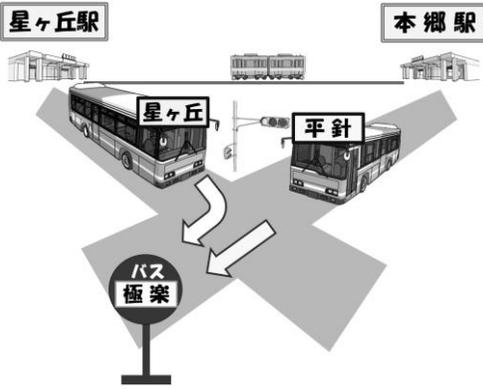
さて、極楽バス停の話に戻ります。このバス停には星ヶ丘発「星ヶ丘循環」のほかに本郷発「平針行き」が発着します。平針行き4分後に星ヶ丘循環が発車するダイヤですが、混雑状況で入れ替わることもあります。健康者であれば行先表示で判断できますが彼女にはわかりません。

(次ページへ)

星ヶ丘循環に間違えずに乗るには、彼女にとって何が一番わかりやすい方法かを考えました。行先表示の文字を記号として覚える方法、車外向け案内放送をしっかりと聞く方法、同じバスに乗る常連さんを覚える方法などが考えられます。どれも彼女にとって難しそうです。

そこで、バス停までのバスの進入ルートに注目しました。手前の極楽交差点を、平針行きは直進、星ヶ丘循環は右折で進入してきます。視覚に訴える、これが一番いい方法だと思えました。「ぐるっと回ってくるバスに乗るんだよ」と繰り返し教えました。通所1年半になりますが間違えたことはありません。

家族はこの識別方法で判断しているのだと思っていますが本当のところはわかりません。障がいは重度でも自立心の強い彼女は一人通所がお気に入りです。今日もバスを降りてすぐに「星ヶ丘につきました！」と元気な声で電話をかけてきました。



極楽バス停へ進入する
バスルート

雑誌 ごまめの歯ざり

日本の「特別な」高校野球

日本の高校野球、特に夏の甲子園はあの暑さの中、勝っても負けても精一杯のプレーに感動するファンの人も多い。ただ、実際にやっている高校生とその家族は本当に大変な日々を過ごし、我が家はまさしく今その真つ只中にいる。高校2年生の息子は、小学校1年から始めた野球人生の集大成の1年がこの夏始まった。世の中が甲子園に沸いている夏、ほぼ大半の3年生はその予選で敗れ引退をし、間を空けず代替わりした新チームの秋大会がお盆前に始まるのである。

日本の高校野球は独自の様々な文化を持っているが、坊主頭もその一つだ。昨今の高校野球児は坊主でないことも多いのに、それがニュースなどで取り上げられることもしばしばあるのは、それだけ野球部＝坊主というイメージが強い裏返しである。このことに象徴されるように様々な場面で「古い考え方」が残っていると思うことが多い。

背番号もその一つである。試合数日前にメンバー発表し配られるので、毎回直前に縫い付けることになる。背番号をもらえた嬉しさもあるが、働く親にとって、仕事から帰ってクタクタの夜背番号を縫うのも一苦労だ。

毎日の大量なドロドロの洗濯物、体調に合わせた食事や大量に持たせる飲み物の準備などを、働きながら支える親の負担はとてつもなく大きく、もし子供が野球をやりたいと言ったとしても親として考えてしまうことも多いだろう。尋常でない暑さの中で試合を行うことの論議がされるが、もっと大きな視点で改革をされないと、違う意味での「特別な」野球となってしまうのではと思う。この夏甲子園で優勝した慶応高校が新しい形を示してくれたように、ぜひ「楽しい野球」へ変わってほしいと願う。

(支援者 鈴木 奏子)

エゼル福祉会

2023年度 全職員研修

エゼル福祉会主催の法人全職員研修を7月8日に行いました。

講師には、元エゼル福祉会通所部門の施設長で、評議員として運営に関わり現在はゆたか福祉会ライフサポートゆたかの管理者、共同作業所全国連絡会（きょうされん）の愛知支部事務局長をされている今治 信一郎氏、障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会（障全協）の家平 悟事務局長を招きました。

午前は、大川理事長より、コンビニハウス
の立ち上げから、通所施設WILLの設立、
法人格の取得までの歩みを学びました。今治
さんからは、制度の乏しい時代、仲間やその

家族、ともに働く職員やボランティアさんと
過ごした日々の大切さや、社会モデルの視点
から考える障害、次世代に繋いでいく運動の
バトンというテーマでお話していただきま
した。

後半は、障全協の家平さんより、ご自身が
事故で障害をもたれてから運動に参加する
経緯と障害者問題がなぜ起こり、どう解決し
ていくのか、障害者施策や6月まで行われた
国会の動向など、資料を基にお話をしてい
たいただきました。

講師のお二人のお話で共通している部分
に、障害者のための制度、合理的配慮は決し
て障害者だけが享受できる特別なものでは
なく、障害のない人と同等の権利を得るため
の当たり前のものであると感じました。先人
が起こしてきた運動と制度を知り、多様性に
合わせた権利、人権を考え、声に出していく
ことが大切であると学びました。

（通所部 V O L O 大西 哲平）

職員の感想文から印象的な文章をいくつ
か抜粋しました。

* * * * *

【 午前の部 】

エゼル福祉会の理念と歴史について

◆ 生活支援部 小林 優菜 ◆

今回の研修を受けて、改めてエゼル福祉会
の成り立ちや理念となったみんなの想いを
勉強する機会になりました。コンビニハウス
ができた当初は国の制度も充分ではな
いけれど、志の高いボランティアさんたちが
集まって、仲間や親のために活動されてきた
こと、その時代がうらやましいと思いました。
今は制度がたくさんありますが、その中で使
えるものを選択して、その枠組みの中でしか
実現することができないものだと感じまし

た。

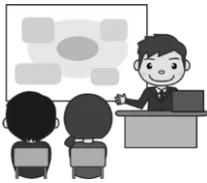
しかし制度を使うだけではダメなのですね。市江さんや大川理事長や今治さんのように何が仲間にとって必要なかを議論すること、制度を突破する力が必要だとわかりました。

私が就職先にエゼル福祉会を選んだ理由として、一対一で利用者主体、丁寧な支援ができるところに魅力を感じたので、その気持ちを忘れずに支援していきます。

現場ばかりだとその日の支援だけ時間だけに目を向けがちで終わらせてしまいがちです。最近は50代になった仲間たちの未来に向けて考えなくてはならない時期にきています。それこそ身体的にも衰えるし、制度も今のままでは乏しい。介助技術にはマニュアルがあるかもしれないけれど、仲間各々の個性もあるし、ましてや未来のことにマニュアルはありません。だからこそ、関わるスタ

ッフや仲間たちと話し合っていくこと、制度が足りなければ、声を上げていくことが必要ではないかと思いました。

私はまだ5年目ですが「5年目だからまだできない」「またそこまで考えなくていい」と思っていたところもあります。5年目だからこそ考え、仲間や親のために行動し、発信することもあると思いついて自分ができることを見つけていきたいし、勉強したいです。障害者の声や気持ちは誰が聞くべきなのか、ヘルパーとして働く私たちはもちろんですが、そうでない人にも話を聞いてもらいたいし、寄り添っていただきたいと思っています。そうすれば、社会的障害もだんだんと取り除かれて、もっと地域共生につながると思うので。



【午後の部】

最新の障害福祉制度動向

「わがらの運動」

◆ 通所部 VOLLO 坪内 美紀 ◆

家平さんが障害を持ってから特別支援学校で学び、福祉ホームでの自立生活からの運動の重要性に気づき、権利保障、人権保障の運動を行ってきたこと、恋愛、結婚、子育てを通して考えた障害者の自立、ということも濃いお話を聞くことができ、良い勉強になりました。

エゼル福祉会にも何名か自立生活をされている方がいるし、これから自立に向けて少しずつ動いている方も何名かいます。その方たちに自立とはどういったものか自分が支援者としてどう関わっていけば良いのかを深く考えるきっかけになりました。

障害者政策の動向と課題のところで虐待について触れていましたが、「虐待がなぜ起

こってしてしまうのかを追及すると虐待防止委員会ではなく、障害者の人権を守る権利保障委員会が必要なのでは」なるほどそういう考え方があるのかと言う驚きがあり、疑問やこれはおかしいという思いが運動として形になっていくと思えました。自分の中にもそういった疑問が出てきたときは、周りの人と共有していけるようにしたいと思えました。

駅のホームドアの設置についての話を聞き、以前夫がホームドアについて「あんなものは税金の無駄」といったことを思い出しました。私が「視覚障害者の方がホームに落ちた事故があったから、設置されるんだよ」と伝えると理由を知ったことですぐに納得していました。背景を知らない人や夫のように福祉や社会に興味関心がない人への働きかけが、私の運動の第一歩かなあと思いが広がっていききたいです。

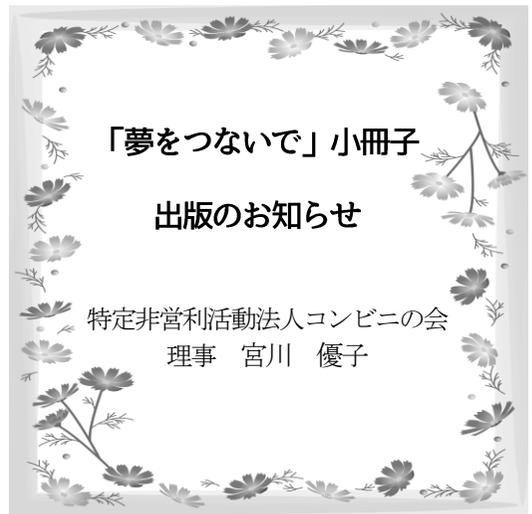
◆ 通所部 VOLLO 曽我 美保 ◆

私が今回一番心に残っているのは「尊厳が傷つけられた」という言葉です。家平さんが障害を持ってから躊躇しながらも結婚した後、奥様の収入が多く、応益負担による利用者負担が10倍以上になった時の言葉に涙が出ました。なかなか国の制度は弱いもののが持ちや状況がわかっていません。

大変であっても「一人の要求がみんなのものに」「生きていく権利を勝ち取らなきゃいけない」という言葉からその重さと力強さをとても感じました。電動車いすのガイドヘルパー制度の事は家平さんが実際に直面しておかしいと感じて調べて勉強して訴えて行動に起こしたと。家平さんの人生は戦いの連続ですが、活動をされている家平さんとはとても素敵で輝いているように思い、私自身もいろいろ考えさせられました。人間は興味のないことにはなかなか関心を持たず、積極的に

知ることもなく過すことが多く、他人事になつてしまいがちです。

私たちは常にテレビなどのマスメディアやインターネットメディアからの情報に頼っています。現在は何が正しい情報なのか分からなくなっています。私はこの業界に転職してエゼル福祉会の勉強会でなぜ憲法第9条の問題について学ぶのか最初は全くわかりませんでした。しかし実際は防衛費と社会保障費は反比例していてとても深く関わっています。この事実はテレビを見ているだけでは見えて来ません。何が正しいのか自分で調べて勉強して見極める力も必要です。ただ障害者の方にはなかなか訴えることができる方も多くみえます。家平さんのようにほんとに大変ですが、最前線で戦っている方のお話を拝聴できてとても感慨深く感じました。



この度、コンビニの会では2008年11月～2009年9月号（会報75号～80号）に連載した「夢をつないで 大川美知子」を再編集し、8月に出版しました。「重度障害者の24時間を考える」学習会からコンビニハウスが本格的な支援活動をするまでの記録です。会報の表紙を季節の花で飾ってくれる

河嶋秀直氏に写真を提供していただき、全50頁の小冊子が完成しました。

近年のヘルパー人材不足は深刻で様々な取り組みをしています。その一つとしてエゼル福祉会の成り立ちを知ってもらうことが人材募集の一助となるのではと思いつきました。働く側にとって給与や休日などの情報は入手しやすいですが、会社でいえば社風、社会福祉法人というと社風風でしょうか、これは伝わりにくい。そこで設立の歴史を知れば価値観や雰囲気の原点を理解していただけるのではと考えました。

また、エゼル福祉会の評議員会で障害者運動の結果、現在の制度が作られたことが職員

に理解されていないとの指摘がありました。

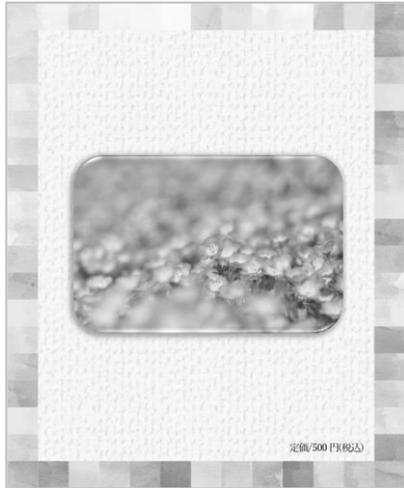
若い職員に30年近く前の社会状況を伝えるどのように現在につながっているかを伝える必要が出てきました。このような趣旨から7月に行われた全職員研修では理念と歴史を振り返り、小林さんのような若い職員に大きな刺激となったようです。

制度がなかった時代に障害児者を抱えた家族が社会に向けて発したSOSは届きやすかった。周囲の方々が自分のできることを考えて、ボランティアや寄付が集まりました。ところが、あれほど切望した制度が整つてくると利用者や職員は契約で結ばれ、介助介護がつかまらない労働になりがちです。また、社

会の関心も薄れていくように感じます。

AIやロボットがどれほど発達しようとも人間を相手にする福祉の仕事はなくなりません。それぞれが人間力を磨き、周囲の人と深く結びつけば、よい仕事が豊かな人生をもたらしてくれると思います。

ここに書かれていることは大川氏、市江氏2人の稀有な才能を持った親子の物語でもあるし、後の制度につながるビジネスモデルを構築したサクセスストーリーでもあるし、金欠に苦しみながら幸運な出会いで乗り越えた奇跡の記録でもあるし、障害者の人権を守るための介助介護の求道者たちの経典でもあるのです。お読みいただければ幸いです。



<裏表紙>



<表紙>

最後になりましたが、会報読者の皆様の支援があつてこそ今日のエゼル福祉会があります。今後とも末永くお付き合いください。

会報読者の皆様に届けたいところですが、希望者のみの配布にさせていただきます。

申し込み方法はメールまたは電話でお願いします。

メールの場合、件名に「夢をつないで 送付希望」本文にお名前と送付先住所をお書きください。

1冊は無料で送りますが、2冊めからは1冊につき500円頂きます。

メールアドレス：convini@ezeru.or.jp

電話番号：052-505-6082

※発送にお時間をいただく場合があります。ご了承ください。

《活動状況》

7月

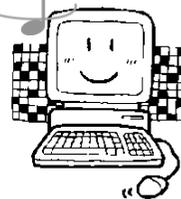
- 3日 日本福祉大学訪問 (大川・榊原)
- 4日 社協 福祉専門職としての接遇研修
(馬淵・山崎)
- 5日 愛知淑徳大学訪問 (大川・榊原)
- 6日 安全運転管理者講習 (榊原)
- 8日 エゼル福祉会全職員研修
「エゼル福祉会の理念と歴史について」
大川理事長・今治 信一郎氏
「最新の障害福祉制度動向とこれからの運動」
障全協 事務局長 家平 悟氏
- 10日 自立支援部会防災会議 (久野)
- 10日 椋山女学園大学訪問 (大川・小林)
- 10.12日 動作法研修
- 11日 運営会議
- 12日 社協 業務効率化研修 (木村)
- 17日 WILL・VOLO 祝日開所
- 18日 ケース会議
- 19日 NPO法人コンビニの会 総会
- 20日 名城大学訪問 (大川・榊原)
- 21日 連絡調整会議
- 24日 会報発送
- 24日 社協 精神障害研修 (渥美・佐藤)
- 26日 名古屋経済短期大学訪問 (大川・溝口)
- 27日 親の会
- 30日 暮らしの場交流会 (榊原)
- 31日 大同大学訪問 (大川・野村)

8月

- 2日 会報会議
- 3日 運営会議
- 4日 名古屋生活支援事業者連絡会総会
- 8.22日 動作法研修
- 11～15日 WILL・VOLO 夏季休暇
- 16日 法人監査
- 18日 社協 権利擁護研修 (曾我・小林)
- 20日 障害者福祉就職フェア 名古屋市公会堂
(名古屋生活支援事業者連絡会主催・
名古屋市後援)
(大川・宮川・榊原・渥美・野村)
- 21日 社協 人材育成研修 (木村)
- 21日 きょうされん北東ブロック会議(佐藤)
- 30.31日 きょうされん全国大会(山崎・田原)
- 30日 社協 介護記録研修 (馬淵・高橋)
- 31日 社協 発達障害研修 (北島)



事務局コーナー



「ご協力ありがとうございました」

7月～8月（敬称略・順不同）

★ ご寄付いただいた方々

(NPO 法人コンビニの会)

※会報購読料1万円以上お振込みの方

トクメイ

山上小枝子 黒崎とし子

★ 物品寄付をいただいた方々

(コンビニハウス)

塩澤しのか 山崎ゆき奈

高橋ミル

(WILL)

浅井宏紀

(VOLO)

二宮 昭 塩澤しのか

久保昂太郎 服部いづみ

★ 活動にご協力いただいたにカマ

(コンビニハウス)

大森 信 石原正寅 辻本道子

石原まち 鈴木千春 寺西 剛

榊原さち 田村淳仁 栗本博美

東原光江 西川昇吾 桐澤 潮

後藤 楓 鈴木悠太 小林愛恵

篠田倫子 山本 武 渡部陽妃

松井暖実 梶田里奈 北出麻衣

佐藤晴紀 末光唯楓 青島優津樹

井戸田紗優 玉那覇詠洸 中川真理乃

酒井まみ子 長谷川美緒 榊原つぐみ

平林千聖都 山下茉綺聖

★ 会報発送ボランティア

丹羽正子 藤田ますえ

吉田嘉子 渡辺世津子

コンビニハウス クリスマス会のお知らせ

クリスマス会を開催いたします！

毎年恒例となっていたクリスマス会でしたが
2020年から世界中に新型コロナウイルスが猛威を振るい
2019年を最後に3年間開催することが出来ませんでした。
新型コロナウイルスが5類に移行した事から
今年は開催する運びになりました。



※感染状況で急遽中止することもあります。



自分たちでつくる就職フェア

生活支援部 部長
榊原 芳典



全国的に各分野での労働力不足は深刻です。

障害福祉分野も同様で、昨年開かれた名古屋市との懇談会でも各障害福祉事業所から「人手が得られなくて事業の継続ができない、何とかして欲しい」と悲鳴があがっていました。

どこからともなく「自分たちで就職フェア

を開こう」と言う声があがり始め、夏の暑さ

真っ盛りに名古屋生活支援事業所連絡会で団体主催の就職フェアを開くことになりました。

市内の障害福祉事業所に呼びかけて、8月20日に鶴舞公園内の名古屋市公会堂で14団体が集まる就職フェアを開催する運びとなりました。

名古屋市の後援も受け、「これはすごい催しになるぞ!」と意気揚々と準備に取り掛かりましたが、いざ動き始めると苦難の連続でした。

宣伝チラシや地下鉄沿線での広告費用など次々支出がかさみ、普段ハローワーク等が主催してくれる就職フェアには相当のお金がかけられていることを肌で感じました。費用は最終的に50万円を超え、参加団体や個人に寄付を募ることなどでなんとか捻出しまし

た。

学生に来場してもらえるよう複数の大学を訪問し、キャリア担当者にフェアの趣旨を伝えましたが、大学を挙げて熱心に呼びかけてくれる所もあれば、ていよく聞き流されてしまったこともありました。

実際に足を運んだことで、それぞれの大学の福祉現場に対する認識を知ることができ、キャリア担当者の方とも関係がつくれたことは私にとって有益でしたが、肝心の就職フェアの手心えは今一つでした。

学生ヘルパーたちにも、「友達を誘って参加してほしい」と顔を合わせるたびにお願いしていましたが、就職フェアの日は部活の大会、実習、インターンなど皆忙しい様子で本当に学生は集まるのだろうかかと雲行きが怪しくなってきました。

追い打ちをかけるように盆明けからコロ

な感染者がじわじわと増えていきました。友達を誘って参加してくれると言っていた学生も、コロナに感染してしまい来れなくなりました。思うように学生の参加を取り付けられず、このフェアは一体どうなるのかと不安は募るばかりでした。

「自分たちで就職フェアをやるなんて無謀だったんだろうか…」と、8月20日を迎える頃にはすっかり後ろ向きになっていましたが、蓋を開けてみれば、出展ブースは常に来場者が座って賑わっており、学生の姿が大変多いように感じました。共催している他事業所の方たちも、「すごいですね！50人くらい来場しますよね！」と話していました。確認すると来場者は23名で、内13名が学生でした。皆、「えーもつといたように感じただけどー」と不思議がっていましたが、これには理由があります。

県社協が開いた福祉就職フェアは、出展事業所・ブースが121もありましたが、それに対して来場者は217名です。しかし、来場者のなかで障害福祉分野の希望者は30名弱、そのうち学生は15名でした。障害福祉分野は圧倒的に人気がないので。高齢者、児童のブースには多くの来場者が座ります。障害福祉はなかなか選んでもらえません。ましてや学生と話せることは稀です。

それに比べて、今回、自分たちで開催した就職フェアは、14の出展ブースに対して23名の来場者、その半数以上が学生で、しかも障害福祉に関心のある人たちなので幾つものブースをはしごして話を聞いていました。そのため、出展者は会場内が常に賑わっているように感じたのだと思います。

他事業所の方から「学生としっかり話せたのは久しぶりだった、障害福祉に関心をもつ

ている学生が今でも一定数いるんだとわかって嬉しかった。参加して本当によかった。」と感想をもらいました。

準備や費用など、自分たちで企画・運営することは本当は大変ですが、継続することでこの就職フェアが学生や大学に浸透していくことを期待しています。「障害福祉の仕事について考えるならこの就職フェアに行ったらほうがいい」と毎年話題になれば、障害福祉を志す学生と事業所のマッチングがもっと円滑になるはずですよ。

これからも、人と巡り合う機会、障害福祉事業を知ってもらう機会を自分たちでつくり続けていきたいと思えます。

※次ページに就職フェアの様子がありません。

名古屋生活支援事業所連絡会主催 障害者福祉就職フェア開催しました



日 時：2023年8月20日

場 所：名古屋市公会堂

後 援：名古屋市

参加事業所：14 事業所



【 銀行口座 】

三菱UFJ銀行 小田井支店 店番 238 (普) 口座番号 1440108
特定非営利活動法人 コンビニの会

【 郵便振替口座 】 番号 00800-2-35190 コンビニの会

ご意見・ご質問・お問い合わせは下記までお寄せください。

障害のある人たちの地域生活を支援する
特定非営利活動法人

〒452-0807 名古屋市西区歌里町 147 番地

コンビニハウス Tel (052) 502-7731

Fax (052) 505-6082

コンビニの会
理事 宮川 優子

U R L <https://ezeru.or.jp/>

E-mail convini@ezeru.or.jp

